

平成27年度 標準項目チェック状況
 児童自立生活援助事業【自立援助ホーム】

標準項目	標準項目名称	あり	なし	非該当
1-1-1-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している	100%	0%	0%
1-1-1-2	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	100%	0%	0%
1-1-1-3	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	100%	0%	0%
1-1-1-4	重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)	100%	0%	0%
1-1-2-1	経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている	100%	0%	0%
1-1-2-2	経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している	100%	0%	0%
1-1-3-1	重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	87%	13%	0%
1-1-3-2	重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	100%	0%	0%
1-1-3-3	利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	100%	0%	0%
2-1-1-1	福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	100%	0%	0%
2-1-1-2	全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	100%	0%	0%
2-2-1-1	事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	62%	38%	0%
2-2-1-2	地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	75%	25%	0%
2-1-2-1	第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	100%	0%	0%
2-1-2-2	透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	100%	0%	0%
2-2-2-1	ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	62%	38%	0%
2-2-2-2	ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	62%	38%	0%
2-2-2-3	ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	62%	38%	0%
2-2-3-1	地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	87%	13%	0%

平成27年度 標準項目チェック状況
 児童自立生活援助事業【自立援助ホーム】

標準項目	標準項目名称	あり	なし	非該当
2-2-3-2	地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	87%	13%	0%
3-1-1-1	苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	100%	0%	0%
3-1-1-2	利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	100%	0%	0%
3-1-2-1	利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	100%	0%	0%
3-1-2-2	事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	100%	0%	0%
3-1-2-3	利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	100%	0%	0%
3-1-3-1	地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	75%	25%	0%
3-1-3-2	福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	100%	0%	0%
3-1-3-3	事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	100%	0%	0%
4-1-1-1	理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	13%	87%	0%
4-1-1-2	年度単位の計画を策定している	100%	0%	0%
4-1-1-3	短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	87%	13%	0%
4-2-1-1	利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	87%	13%	0%
4-2-1-2	事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	100%	0%	0%
4-2-1-3	事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	75%	25%	0%
4-2-1-4	事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	100%	0%	0%
4-1-2-1	課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	75%	25%	0%
4-1-2-2	課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	100%	0%	0%
4-1-2-3	計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	100%	0%	0%

平成27年度 標準項目チェック状況
 児童自立生活援助事業【自立援助ホーム】

標準項目	標準項目名称	あり	なし	非該当
4-1-2-4	計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	100%	0%	0%
4-1-3-1	計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	75%	25%	0%
4-1-3-2	計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている	100%	0%	0%
4-1-3-3	計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	25%	75%	0%
4-1-3-4	計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	87%	13%	0%
5-1-1-1	事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	87%	13%	0%
5-1-1-2	事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	100%	0%	0%
5-1-1-3	適材適所の人員配置に取り組んでいる	100%	0%	0%
5-2-1-1	職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	87%	13%	0%
5-2-1-2	職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	100%	0%	0%
5-2-1-3	職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	100%	0%	0%
5-1-2-1	職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	87%	13%	0%
5-1-2-2	事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	13%	87%	0%
5-1-2-3	個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している	13%	87%	0%
5-1-2-4	職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている	50%	50%	0%
5-1-2-5	職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	100%	0%	0%
5-2-2-1	事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	38%	62%	0%
5-2-2-2	就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	100%	0%	0%
5-2-2-3	職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	100%	0%	0%

平成27年度 標準項目チェック状況
 児童自立生活援助事業【自立援助ホーム】

標準項目	標準項目名称	あり	なし	非該当
5-2-2-4	福利厚生制度の充実に取り組んでいる	87%	13%	0%
6-1-1-1	利用を希望する子どもが入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	100%	0%	0%
6-1-1-2	利用を希望する子どもの特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	100%	0%	0%
6-1-1-3	事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	100%	0%	0%
6-1-1-4	利用を希望する子どもの問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	100%	0%	0%
6-2-1-1	サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を子どもの状況に応じて説明している	100%	0%	0%
6-2-1-2	サービス内容について、子どもの理解を得るようにしている	100%	0%	0%
6-2-1-3	サービスに関する説明の際に、子どもの意向を確認し、記録化している	100%	0%	0%
6-3-1-1	子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	100%	0%	0%
6-3-1-2	子ども一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	100%	0%	0%
6-3-1-3	アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	100%	0%	0%
6-4-1-1	個別の支援計画に基づいて支援を行っている	100%	0%	0%
6-4-1-2	子どもと信頼関係を構築できるよう、子ども一人ひとりに合った方法で接している	100%	0%	0%
6-4-1-3	子ども一人ひとりの自立に向けて、関係機関(児童相談所、児童福祉施設、就労先等)と連携をとって、支援を行っている	100%	0%	0%
6-4-1-4	子ども一人ひとりの状況や意向に応じた退所後の支援を行っている	100%	0%	0%
6-5-1-1	子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要がある場合には、本人の同意を得るようにしている	100%	0%	0%
6-5-1-2	個人の所有物や郵便物の扱い、居室への職員の出入り等、日常の支援の中で、子どものプライバシーに配慮した支援を行っている	100%	0%	0%
6-5-1-3	子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	100%	0%	0%
6-6-1-1	手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	75%	25%	0%

平成27年度 標準項目チェック状況
 児童自立生活援助事業【自立援助ホーム】

標準項目	標準項目名称	あり	なし	非該当
6-6-1-2	提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを定期的に点検・見直しをしている	62%	38%	0%
6-6-1-3	職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	50%	50%	0%
6-2-2-1	サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	100%	0%	0%
6-2-2-2	利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	100%	0%	0%
6-2-2-3	サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	100%	0%	0%
6-2-2-4	サービスの終了時には、子どもの不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	100%	0%	0%
6-3-2-1	計画は、子どもの希望を尊重して作成、見直しをしている	100%	0%	0%
6-3-2-2	計画を子どもにわかりやすく説明し、同意を得るようにしている	100%	0%	0%
6-3-2-3	計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	87%	13%	0%
6-3-2-4	計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	100%	0%	0%
6-4-2-1	子どもが自分にあった仕事につけるよう、就職活動における情報収集等必要な支援を行っている	100%	0%	0%
6-4-2-2	就労後も子どもが仕事を継続できるよう、相談に応じる等必要な支援を行っている	100%	0%	0%
6-4-2-3	継続した就労のために、子ども一人ひとりに応じた就労先との調整を行っている	100%	0%	0%
6-5-2-1	子どもの基本的人権について、日常生活の中でわかりやすく説明している	87%	13%	0%
6-5-2-2	日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(子どもが「ノー」と言える機会を設けている)	100%	0%	0%
6-5-2-3	子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止を徹底している	100%	0%	0%
6-5-2-4	虐待被害にあった子どもがいる場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	100%	0%	0%
6-5-2-5	ホーム内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう、組織的に予防・再発防止を徹底している	100%	0%	0%
6-6-2-1	提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	75%	25%	0%

平成27年度 標準項目チェック状況
 児童自立生活援助事業【自立援助ホーム】

標準項目	標準項目名称	あり	なし	非該当
6-6-2-2	提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子どもからの意見や提案を反映するようにしている	100%	0%	0%
6-6-2-3	職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	100%	0%	0%
6-3-3-1	子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	100%	0%	0%
6-3-3-2	計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	100%	0%	0%
6-4-3-1	子どものコミュニケーション力(人間関係構築力)が向上するよう支援を行っている	100%	0%	0%
6-4-3-2	基本的な生活習慣(起床時間、食事のマナー等)及び生活知識・技術(家事、社会生活上のルール等)を身につけられるよう支援を行っている	100%	0%	0%
6-4-3-3	収入の範囲内で生活できる経済観念が身につくよう、日常生活を通じて、金銭の管理や使い方について、支援を行っている	100%	0%	0%
6-4-3-4	資格取得・進学に向けた学習への支援など、子どもの目標達成のための支援を行っている	100%	0%	0%
6-4-3-5	子どもに、地域と日常的に関わりながら生活しているということの大切さを伝えている	100%	0%	0%
6-4-3-6	子どもの生活の幅が広がるよう、地域にどのような資源(地域の行事、公共のサービス等)があるのかを伝えている	100%	0%	0%
6-6-3-1	打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	87%	13%	0%
6-6-3-2	職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	100%	0%	0%
6-6-3-3	職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	100%	0%	0%
6-6-3-4	職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	100%	0%	0%
6-6-3-5	職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	100%	0%	0%
6-3-4-1	計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	100%	0%	0%
6-3-4-2	申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	100%	0%	0%
6-4-4-1	子どもの自主性を尊重し、意見を聞く機会を設けている	100%	0%	0%
6-4-4-2	居室や共有スペースは、快適で落ち着ける環境となるよう工夫している	100%	0%	0%

平成27年度 標準項目チェック状況
 児童自立生活援助事業【自立援助ホーム】

標準項目	標準項目名称	あり	なし	非該当
6-4-4-3	行事やイベントを通じて、子どもが生活の幅を広げることができるよう支援を行っている	100%	0%	0%
6-4-5-1	子どもの心身の健康状態に注意するとともに、心の悩みや不安の相談に応じている	100%	0%	0%
6-4-5-2	子どもが健康を自己管理できるように支援を行っている	100%	0%	0%
6-4-5-3	子どもの抱える問題に応じて、心理的ケアが必要な場合は、関係機関と連携をとって、支援を行っている	100%	0%	0%
6-4-5-4	子どもの急な体調変化時に、医療機関等と速やかに連絡がとれる体制を整えている	100%	0%	0%
6-4-5-5	性についての正しい知識と理解が得られるよう、子どもの状況に応じた説明を行っている	100%	0%	0%
6-4-6-1	食事時間は楽しく、安心感を得られるひとときになるよう工夫している	100%	0%	0%
6-4-6-2	食についての関心を深めるための取り組みを行っている	100%	0%	0%
6-4-6-3	食事時間は子どもの希望や生活状況に応じて対応している	100%	0%	0%
6-4-7-1	子ども一人ひとりの状況に応じて、家族とどう向き合っていくかの支援を行っている	100%	0%	0%
6-4-7-2	家族との関係調整(家族との距離感を保つことも含む)の際は、関係機関と情報交換・連携を行っている	100%	0%	0%
6-4-7-3	子どもから、保護者との面会、外出、一時帰宅等の希望があった場合は、状況を把握した上で、子どもの安全に注意しながら行っている	100%	0%	0%